ジャンル:知財 講習会コード: t d s 2 0 2 6 0 2 2 6 k

関係部門との「すれ違い」の要因を理解し、知財の価値を正しく伝えるコツを解説。相手が関心をよせる「安定経営」や「事業成長」と結びつけた知財戦略の策定、相手に刺さる言葉・論点・タイミングを具体的に紹介。

経営層・事業部門・研究開発部門が関心を引く知財戦略レビュー

講師: 知財戦略ラボラトリー 代表、元セイコーエプソン株式会社 知的財産本部 特許技術部長 小嶋輝人 氏

湯浅電池(株)(現 GS ユアサ)にてプラント設計等に従事、クリエートメディック(株)で商品開発に従事。 1998 年 セイコーエプソン(株)に入社し、知財部門に 21 年在職。インクジェットプリンターからプロジェクター、ロボット、デバイスまで、広範囲の出願・権利化活動、米国訴訟、知財戦略に関与。2017 年より部長としてセイコーエプソンの知財戦略推進の中心的役割を担ってきた。2023 年 11 月に定年退職後も同社事業戦略推進のため残留。その傍ら、知財戦略ラボラトリーを起ち上げ、フリーランスとしての活動も開始した。

- ●日 程 2026年2月26日(木) 13:30~16:30
- ●受講料 27,500 円 (税込/テキスト付)

1. 経営と知財のズレ

- ・「すれ違い」のワンシーン:「どんな風に」伝わらないのか? なぜ伝わらないのか?
- ・互いの視点・論点・言語を揃える: 相手の事業戦略検討の中枢に入り込む必要性
- ・突破口を探す:橋渡しとなってくれるキーパーソンは誰か?

2. 「事業戦略」を知る

- ・簡単にできることではない:経営学者でも意見は分かれている
- ・「戦略」とは何か:統一的見解・定義はあるのか?
- ・必ず考えなければならないこと:あなたの会社で今一番大事なことは何か?
- ・「事業戦略」の本質:一番大事なことを確実に成し遂げるには?
- ・知財部門にわかる話か?: AI を使ってある程度の見当をつける方法1

3. 「知財戦略 |を「事業戦略 |の中に位置付ける

- ・そもそも知財とは何か?:「特許で守るところなど事業の本当の強みではない」
- ・「模倣困難性」という概念:知財以外の参入障壁
- ・「価値」と「障壁」: その「価値」は模倣困難か?
- ・事業の弱みを知財で守る:事業の「模倣に対する脆弱性」と知財戦略
- ・どうやって分析すれば良い?: AI を使ってある程度の見当をつける方法2

4. 「ポートフォリオ戦略」について

- ・「事業戦略」の中の「知財戦略」遂行の基本:特許クラスター
- ・競合他社との関係を考慮する:特許ステータスマップ

5. 「知財戦略」を伝える

- ・「事業戦略」の本質を知財部門はどう捉えたか?:経営とのすり合わせの原点
- ・「経営課題を確実に解決する」のを妨げる知財障壁について:「脆弱性」の指摘
- ・「知財障壁」克服の方針:ポートフォリオ戦略
- ・ポートフォリオ戦略実行の計画と予算

6. 理想と現実の狭間

- ・貴社の知財戦略をレビューする: 知財戦略アセスメント
- ・課題だらけに惑わされない:全部課題だからと言って全部やらなければならないのか?
- ・継続は力:複数課題に対する取組み方

<講義概要>

経営と知財の「すれ違い」はどこにあるのでしょうか? 次のような話を題材に、経営層、事業部門、研究開発部門に伝わる知財活動(戦略)と、伝え方を学びましょう。

- 1. 視点の違い:経営層や事業部門は安定経営と事業成長を目指しています。彼らの視点に立った時に、ライセンスの行方や個別の特許の威力の話よりも、それらが安定経営や事業成長にどのような影響を及ぼすのか、を知りたいのです。
- 2. 論点の違い:経営層や事業部門が気にしていることの多くは、売上や利益の今後の見通しです。良くも悪くも、技術開発戦略でさえ、 短期的および長期的な売上・利益への影響を問われます。この論点に刺さらない限り、知財戦略の話もなかなか興味を惹きません。
- 3. 言語の違い: 例えば知財部門が気にしている「いつ」は「新規性喪失前」ですが、事業部門が気にしている「いつ」は、「事業の立上げタイミング」だったりします。それぞれの思惑によって、「大事な事柄」を表す言葉の意味が違うので、話が噛み合わないことがあります。

くお申込要項>

下記に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込みください (※は必須です)

	FAX	$\overline{}$	
03-	6261-7	7924	

申込講	座	2026/2/26 経営層・事業部門・研究開発部門が関心を引く知財戦略レビュー (3		
会社名	会社名※			
所在地 ※ (請求書等の送付先)		₹		
	氏名※		TEL*	
参加者①	所属※		FAX 役職	
	Email*		@	
	会員登録	□ 登録する	る □ 登録しない (登録料・会費はかかりません。お得な割引や会員イベント情報等を配信します)	
	氏名※		TEL*	
参加者②	所属※		FAX 役職	
	Email*		@	
	会員登録	□ 登録する	る 登録しない (登録料・会費はかかりません。お得な割引や会員イベント情報等を配信します)	
支払方	支払方法 _※ □ 銀行振込(紙請求書) □ 銀行振込(PDF 請求書) □ カード支払い □ 未定のため後日連絡する		各する	
支払予:	定日※	□ □ □ □ □ □ □ 日ごろを予定している □ 未定のため後日連絡する		
備考 ※		⊃∪ ∵ ॏ ⋜≒⊒	入された個人情報については、当社規定の「個人情報の取扱い」に基づき、適切に管理	FTT . VIET

※【個人情報の取扱いについて】 ご記入された個人情報については、当社規定の「個人情報の取扱い」に基づき、適切に管理・運 用いたします(詳細 https://www.tech-d.jp/privacy/apply_privacy.pdf)。

お申込について

① 以下のいずれかの方法でお申込みください

Α	FAX	上記に必要事項をご記入の上、送信ください		
		送信先:entry@tech-d.jp		
В	E-mail	メール本文に<①【申込講座】②【会社名】③【所在地】④【氏名】⑤【所属】⑥【Email】⑦【TEL】		
		⑧【支払方法】、⑨【支払予定日】>をご記入の上、ご送信ください		
С	Web	https://tech-d.jp/ の各講座のページからお申込みください		

- ② お申込受付後、受付完了のご連絡(メールまたはお電話)をいたします
- ③ 請求書等をお送りいたします

<注意>

- ① お申込後1週間たっても受付完了の連絡がなかった場合は、お手数ですが、弊社までご連絡ください
- ② 開催日の7日前以内のキャンセルはお受け致しかねます。必要に応じ代理の方のご出席をお願いいたします

お支払について

<期日>

受講料は講習会開催日の翌月末日までにお支払いください

※期日までに間に合わない場合は、対応いたしますのでご一報ください

<方法>

- ①銀行振込 (振込手数料は御社にてご負担願います)
- ②クレジットカード(支払方法はメールでご案内します)

【お振込先】

振込先銀行	三井住友銀行	
支店	多摩センター支店 (909)	
口座番号	(普) 0973522	
名義	株式会社テックデザイン	

	名 称	株式会社テックデザイン(http://www.tech-d.jp/)		
主催 住所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-12-15 九月			九段大和ビル 3 階	
申込・問合先 電話 03-6261-7920		03-6261-7920	FAX	03-6261-7924
	E-mail	entry@tech-d.jp (申込) /	info@tech-d.jp) (問合)